

『ゴキブリ』 作…ポチ子

彼女 「ねえ、どういうつもり？」

彼氏 「あ？」

彼女 「何してんのって言ってんの。」

彼氏 「お前が言った通り、ゴキブリ捕まえてやったんだろうが。」

彼女 「私の言った通り・・・？私は、ゴキブリを駆除して言ったの。あんた、何した？」

彼氏 「だから、ゴキブリを捕まえて、外に逃がしたんだろ。」

彼女 「はあ！？意味わかんない！なんで逃がすの？私はこの殺虫剤でゴキブリを殲滅しろって言ったの！逃がしてどうするのよ！」

彼氏 「だって殺したら、ゴキブリが可哀想だろ。」

彼女 「ゴキブリに可哀想もくそもない！迷わず殺れ！」

彼氏 「ゴキブリだって、一つの命なんだぞ！あいつらだって頑張って生きてんだよ。それを軽々しく奪うなんて、お前、人間じゃねえ！」

彼女 「知りませんね。大体人の家に不法侵入しといて、生きて帰れると思っているのが間違いなよ。あいつらだって、相應の覚悟を持って台所に住み着いてんのよ。慈悲なんてい

らないわ！」

彼氏 「あいつらだって、帰りを待ってる家族がいるんだ。まだ、子供だって小さいかもしれないだろ。」

彼女 「子供がいるだなんて言わないでよ。この台所にまだいると思ったら夜寝れなくなるでしょ。」

彼氏 「1匹出たら30匹はいるって言うよな。」

彼女 「黙って！もー聞きたくない。どうすんのよ、あんたが逃がしたゴキブリがまた入ってきたら！」

彼氏 「そしたら、また俺が捕まえればいいだろ？」

彼女 「毎日いるわけじゃないでしょ！あんたがいないときに出てきたらどうすんのよ！」

彼氏 「さつきからうるさいな！お前が急に電話で呼び出して、『助けて！』なんて大げさに言うから、急いできてやったのに！」

彼女 「大げさって何よ！ゴキブリが出たら、そりゃ助けてってなるでしょ。命の危機と同等よ。」

彼氏 「それに、殺虫剤あるんだったら自分でやればいいだろ！」

彼女 「1ミリでも近づくのが嫌なの！飛んで来たらどうすんのよ！」

彼氏 「あーめんどくさいな！こんな時ばかり女出しやがって。」

彼女 「そっちこそ、この役立たず！！」

彼氏、彼女、息を切らす。

数秒間の沈黙。

彼女 「・・・ごめん、夜遅く呼び出して。」

彼氏 「・・・別に、おれも怒鳴ってごめん。」

彼女 「いいよ、私も怒鳴ってたし・・・。ゴキブリが無理すぎて、

取り乱した。」

彼氏 「なあ、俺ら一緒に住まない？」

彼女 「は？」

彼氏 「そしたら、ゴキブリ逃がしても、毎日俺がいるから安心だ

ろ？」

彼女 「だから、逃がさないですよ・・・ふふっ。」

彼氏 「なんだよ。」

彼女 「それ、今のタイミングで言うこと？もうちょっと別にあっ

たでしょ。」

彼氏 「うるせーな。思いついたんだから、しょうがないだろ。」

彼女 「はははっ・・・部屋借りるの、3階以上ね。虫、あんま湧

かないところしか認めないから。」

彼氏 「ふっ。はいはい、分かったよ。」